

開催報告

令和2年度土木学会全国大会の報告

日本大学 山中 光一

令和2年度土木学会全国大会が令和2年9月7日(月)～11日(金)にかけてオンライン型式にて開催された。本来であれば、9月9日(水)～11日(金)の3日間、名古屋工業大学を主会場として、中部地方では8年ぶりに開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けオンライン型式での開催となった。

今年の全国大会は、「基調講演」「特別対談」「全体討論会」「3.11 東日本大震災リレーシンポジウム」「特別セッション・特別討論会」はwebのLive配信により開催され、年次学術講演会については、論文登録時に使用したシステム(Confit)を利用したWeb討論会として開催された(基調講演に関しては、現在でもYouTubeで聴講可能)。Web討論会では、事前にアップされた論文概要及び発表スライドを閲覧し、チャットに質問やコメント内容を書きこむ方法で開催されている(気になった論文に「いいね!」を付けられるなど、SNSのような方式)。

ジオシンセティックス材料や補強土に関連するセッションは、補強土(1)と補強土(2)の2セッション(合計論文数:20件)であった。関連する論文はその他のセッション(「洗堀・浸食」「CIM」「リサイクル・廃棄物」等)でも投稿されており、キーワード検索では48件の論文が投稿されていた。特に、ジオシンセティックス材料や補強土の中でも品質や維持管理に関する論文、耐震性に関する論文が多く投稿されていた。その投稿範囲は他部門にまで広がっており、その守備範囲の広さを改めて実感した。

今年度の全国大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け新しい方式で初めての試みでの開催であったためセッションが活発に進んだとは言い難い状況ではあったが、次年度以降も関連論文の数が増えセッションが活発化することを期待したい。



図 論文聴講画面

(期間経過後のためコメント上記の図にはコメント欄はなし)